

2024年度理工学部FD活動報告

理工学部 2024年度 FD委員会委員 河野浩之

理工学部の2024年度に実施した FD 活動は以下の通りである。

- 当初計画

- (1)FD 報告会の開催

- 学部教員全員を対象とする FD・自己点検報告会を開催する。

- (2) FD 講演会の開催

- 外部講師を招いて FD 講演会を開催する。オンライン環境を利用して学外との情報交換の場とすることもあり得る。

- (3)教育活動の評価

- 教育活動の評価を行い、優れた授業を行うなど、学部の教育に貢献のあった教員を表彰する。

- (4)「学生による授業評価」の実施結果の分析

- 2017 年度から開始した、授業評価アンケートの理工学部独自の設問の回答について、全学共通の設問の回答と合わせて分析を行う。

- (5)教員相互の授業参観の促進

- 2024 年度活動内容

- (1) FD 自己点検報告会を開催とした。

- 2025年3月10日（月）13時00分～14時10分 参加者21名

- S棟研究棟1F会議室1において、対面で「教学IRに関する理解を深め、リサーチ・クエスチョン作成に関するワークショップ」に関する講演とワークショップを実施した。発表者は、横山哲郎 教授（電子情報工学科）（IR推進室長）である。

当日用いた発表資料を教授会資料に加える形で、学部構成員で資料共有した。

<https://handout.nanzan-u.ac.jp/meetings/151024006/2021STK>

FD 講演会

2024年6月26日（水）12時50分～13時26分 参加者 34名

（株）リクルートから講師を招き、Zoom によるオンラインで「2024 年度入試結

果の振り返り」ならびに「高校訪問方針説明」を開催した。

プログラム1：2024年度入試結果の振り返り（昨年度入試における理工学部の出願者分析をもとに、戦略の振り返りを行います）

プログラム2：高校訪問方針説明（今年度の高校訪問に向けた説明を行います）

話者：株式会社リクルート まなび進学情報 Division

関西・東海大学企画営業部 黒澤 杏樹

- (2) 教育業績の表彰では、「システムプログラミング」が、プログラミング言語処理の技術要素である字句解析、構文解析、意味解析の知識、ならびに、並行プログラミングの基本的な概念としてマルチスレッドプログラミング、同期、スケジューリング、排他制御に関する問題解決能力を高める授業内容であることを高く評価した。表彰者は、担当教員の内、名倉 正剛 教授となった。
- (3) 全学「学生による授業評価」(Q1～Q4)については、「学生による授業評価結果の概要」の回答率向上に関して、全学的な取組みが実施された。特に、学生の回答数が重要であるため、2024年度は大規模授業（履修者数241名以上）に焦点があてられた。そこで、大規模授業担当科目担当教員に対して、FD委員から「回答率向上のために授業中に 回答時間の確保をお願いします。」という依頼を行った。該当科目の回答者数は、2023年度は44名（受講者数209名）であったのに対して、2024年度は101名（受講者数252名）から回答を得た。
- (4) 相互授業参観促進方法の提案には至らなかった。しかし、対面形式で実施したFD報告会は、多くの教員が主体的に参加するワークショップ形式であったことから、学生の入学から卒業に至る様々な段階における課題に関して情報交換を行い、リサーチ・クエスチョンに関わる経験をもてた。このことは、相互授業参観にも増して優れた効果があった。

2024年度活動の成果

FD 講演会では、外部講師を迎えて、2023年度の理工学部の受験状況を確認し、昨年度の広報戦略の振り返りを行なった。理工学部で学ぶことに関心をもつターゲット層に対して、どのような内容を説明するべきか、また、学部教員は高校訪問時に何を説明し伝えるべきかなどを、より明確にすることで、学部としての意思統一を行った。

FD報告会では、他学部からの参加を含めた教員が主体的に参加するワークショップ形式で対面で実施された。「教学IRについて」「リサーチ・クエスチョン」「理工学部のIR成果物から考えるリサーチ・クエスチョン」の講演の後、「リサーチ・クエスチョンの作成方法（実践編）」では、リサーチ・クエスチョンの作成経験をもつことで、教学IRに関する理解が深まった。